

のプロデュース作業をしていきたい。「ほうれんぼう」の面目躍如である。

中田さんは林業以外にも手を広げている。2005年、発起人として「小菅村エコセラピー研究会」を立ち上げた。森の持つエネルギーでさまざまな病気の予防や治療をすることが目的の団体だ。医師の研究成果をバックボーンにした活動で、現在はNPO法人として、都会の人を招き入れる。地元活性化の一翼を担う団体だ。

### 山好きの都会人

東京・足立区生まれ。大都会で自然にあこがれを抱いて育った。山の空気が好きで、森に分け入りキャンプを楽しんだ。大学進学時、都内から遠い田園地帯にキャンパスを構える、静岡県三島市の日本大学国際関係学部を選んだ。アメリカンフットボール部に所属、コカ・コーラのテレビCMに出演したこともある。

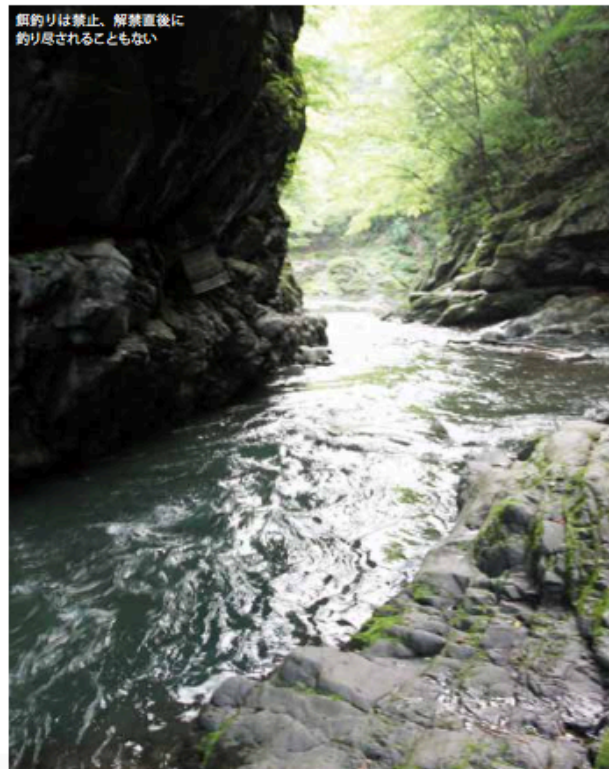
就職で、一度は都会に戻ったが、森への思いは募る。営業マンとして、栃木県宇都宮市などに赴任した。30代で静岡県沼津市の妻の実家に最初の1ターンの。義父母が営む文房具店の経営に携わった。ビジネスのさまざまな局面を乗り越えながら、森での暮らしを模索していた。

転機は平成13年10月に訪れた。小菅村がホストになった、2泊3日の全国森林組合連合会「森林林業ガイドスクール」に

参加した。初心者向けの林業体験合宿に参加したのは64人。最終日の夜に夢を語り合う中で、中田さんは「俺、ここで働きます」と宣言して、周囲を驚かせた。家族も驚いた。

直感があって、即断した。小菅村役場に立ち寄ったところ、職員が村をすみずみまで案内してくれたという。「初めて会った人に、そこまでしてくれる。ここ、いい村だな、いい人たちだな、というのが第一印象でした。村議会も都会の学校のクラス会のように、行政と住民の距離の近さを感じます。森があっても、人に魅力がない所には住もうと思いませんから」。

木も売れないし、稼げないという林業者の本音を聞いても、



釣りは禁止、解禁直後に釣り足されることもない

「そんなわけない」と、決心は揺るがなかった。半年後、北都留森林組合の面接を受けた。森の暮らしの夢、書物で学んだ林業の可能性についてとうとうと語った。「じゃあやってみろ」と採用された。6年前に家を建てた。「家を建てたら、周囲の人は、こいつはやっぱり真剣なんだ、と分かってくれた」と誇らしげに振り返った。

小菅村を起点に、今日も山を歩き回り、森林整備の計画を練り、都会のスポンサーに計画をプレゼンする。

### 渓流にほうれる

中田さんが手入れた森に分け入った。杉の木立の間から日光が降り注ぐ。近くの岩肌から、

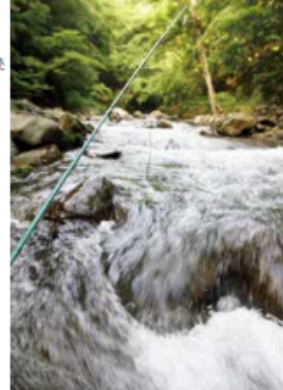
水が湧き出る。この水の一滴滴が、東京湾に注ぐ多摩川の源流のひとつ、小菅川となり、都民の水源地・奥多摩湖に注ぐ。小菅村の森林の約30%、1,630ヘクタールは、東京都の水源地かん養林だ。林道の奥で、雄大な滝・雄滝が轟音をとどろかせる。繊細な白糸の滝が、涼しげに水しぶきを立てる。

小菅川には溪流の女王、ヤマメが棲む。生息地は東日本の清流のみ。西日本のアマゴとともに日本を代表する溪流魚だが、日本で初めて養殖に成功したのは、ここ小菅村の養魚池だ。ルアーやフライ釣り愛好家におなじみの、釣った魚をその場で放流するC&R(キャッチ・アンド・リリース)区間も、関東では初めてのこの地に設定された。

こうなったら、ヤマメの顔が見たい。狙い目は早朝。胸までを覆う長靴、ウェーダーに身を包んで、ルアー用の竿を手に、2kmのC&R区間に足を踏み入れた。午前5時前、暗かった空が、一気に白み始めた。切り立った山に囲まれた狭い空に、朝焼けはない。源流らしく、角ばった石が折り重なる。

下流から、上流に遡上してルアーを投げる。溪流の魚は、上流に頭を向け、流れてくる昆虫などのエサを待ち構える。だから釣りは、水圧に耐えて川を遡上する。ヤマメは警戒心が強く、人の姿を見ると逃げ出す。岩や木々の間を縫

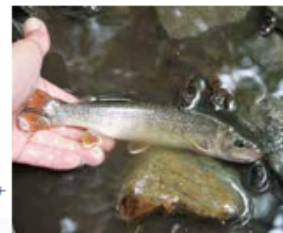
C & R 釣り場は急流や難所の連続



うように、25m以上先の流れに、そっとルアーを着水させる。流れの中心、岩陰などのポイントに、一発で投げ込まねばならない。兩岸に巨大な岩がせり出していたりすると、車道まで戻って、再び数十メートル下の川に降りる。そのたびに汗だくなる。

数時間の釣行の果てに、ついに魚信が到来した。リールを巻き上げると、獲物はヤマメではなく、同じく溪流に棲むイワナだった。20cmほどの小型だったが、星をちりばめたような模様と、整ったヒレが美しい。写真を撮影してリリースすると、体をくねらせ、背びれを立てて流れに消えた。

中田さんの純粋な思い、知恵を巡らせて管理された森から湧く小菅川。その素朴な景色がそうさせたのか。インタビューの私自身が、すっかり「ほうれんぼう」になっていた。会えなかったヤマメの顔を見ないわけにはいかない。いつ再訪しようか。



ようやく顔を見せてくれたイワナ

### 東部森林公園 ほうれんぼうの森

NPO法人ほうれんぼうの森(旧・小菅村エコセラピー研究会)が運営。つり橋やツリーハウスが楽しい国道139号線に近いキャンプ場。

- 〒370-0202 山梨県北都留郡小菅村2402-2
- TEL 0428-87-0435
- JR 青梅線奥多摩駅から西東京バス小菅行き東部森林公園バス停下車徒歩1分。
- ◎ 通年営業
- ◎ コテージ大(定員16人)30,000円、小(同8人)20,000円、バンガロー大7,000円+1人2,000円、小5,000円+1人2,000円、オートキャンプ(電源なし)3,000円+1人1,000円(5~12歳半額)、テントサイト2,000円+1人1,000円(即(いずれも税別))
- ◎ 共同シャワー、共同トイレ、要予約でBBQの食材やキャンプ道具レンタルも可能。ペットも利用可能(有料、予約時に相談)。



キャンプ場「ほうれんぼうの森」

### 小菅村つり情報

小菅川ヤマメ、イワナ釣りの解禁期間(平成26年)は9月30日まで。日釣り券1,000円(現場売り1,500円)、年券5,000円。源流部は1日の持ち帰り5匹以内。餌釣り禁止のC&R(キャッチ&リリース)区間は、奥多摩湖から上流の約2kmで、フライ、ルアー、テンカラ釣りのみ可能(要日釣り券)。魚の持ち帰りは不可。返しをつぶしたパーブレスフック、シングルフックを使用する。支流の宮川、玉川、山沢川は禁漁。ほかに、ニジマスなどの管理釣り場、冬季C&Rニジマス釣り場などもある。



小菅村役場(飯庁舎)は、村営釣り場の建物に隣接している